

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

企業の概要

企業・団体名	ワウテック株式会社	本社所在地	東京都・中央区
業種	情報通信業	総従業員数	45名
事業概要	ビジネスチャット・社内SNS「WowTalk(ワウトーク)」を中心とした法人向け Mobility Device Applicationの企画、開発、販売		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	就業規則(テレワーク規定)
テレワーク担当部署	コーポレート管理部、マーケティング部
テレワーク対象者	全員
実施者数	45名
平均実施日数	月12回以上20回未満程度(概ね週3~4回)

テレワークの導入・拡大の経緯

弊社は、利用社数7,000社超を誇る、ビジネスチャット・社内SNS「WowTalk(ワウトーク)」を自社開発・提供しています。それもあり、新型コロナウイルス感染症が叫ばれる以前から、働き方として“オフィスに出勤して”という形だけではなく、社員の判断で基本的には「テレワーク」を選択できるフレキシブルなスタイルをとってました。ただ、4月の緊急事態宣言発令以降は「原則テレワーク」という形に切り替え、全社員がオフィスに出勤せず、自宅や近隣の施設等から業務遂行する形へとスイッチしました。それ以降、緊急事態宣言が解除されましたが、現状は「テレワーク推奨」という状態で、基本的に「原則テレワーク」時に近い形(=週のほとんどがテレワーク)で業務遂行するメンバーが大半という状態です。

テレワークの概要・特徴

▼テレワーク制度の概要・特徴

テレワーク取得に関しては各自の判断にゆだねている。勤怠に関しては、各部門のグループにて入社退社を共有し、カレンダー上でテレワークか否かを記している。

▼テレワークの活用拡大や定着、効果的な運用のために工夫した点

電話対応とか押印対応などを遠隔でも対応可能とし、業務のための出社を極力減らした。テキストでのコミュニケーションとビデオ会議でのコミュニケーションを必要に応じて使い分けている。

▼テレワークでの長時間労働を防ぐための具体的な取組

各部門においてメンバー管理を行い、月次の規定就業工数(時間)を上回りそうな際は、事前に部門長からメンバーに対して指摘が入る仕組みになっている。また、毎月1回、各部門において、部門長とメンバーによる1on1ミーティングを実施し、「現状業務遂行において」というテーマで面談を行い、そこでもケアを図っている。そのほかでは、日報などでもデイリーの業務内容や日報内の所感で各メンバーの今を知ることができるので、そこで必要に応じて上長やコーポレート管理部がサポートに入るようにしている。

▼その他、今後テレワークを導入する団体の参考になる知見 等

自社での経験、またはビジネスチャットベンダーとして蓄積した「お客様活用事例」のノウハウも含め、テレワーク導入初期、定着におけるサポート・支援が可能参考) <https://dime.jp/genre/892116/> <https://00m.in/99aVK> <https://00m.in/YhvgS>

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

▼テレワークを導入したことによる経営にもたらした効果

従来よりテレワーク・リモートワークという働き方を良しとしていたため、現時点での目立った数値的な成果というのはございません。ただ、直近でいうと、押印対応を電子化したことにより、一部で発生していた「押印のために出社する」という工数は削減できている。

▼テレワーク導入にあたり、ICTの利活用、地方への移住や地方活性化等の取組や成果

今回の新型コロナウイルス感染症によって、積極的にテレワーク・リモートワークを各自が取得するようになり、様々なICTツールを活用したことで、「最適なコミュニケーション手法の選択」というのがより明確になった。また、通勤時間がもともと1時間半~2時間というメンバーに関しては、より時間を効率化することになった。

▼その他テレワークの導入によって創出された社会的効果の事例

ビジネスチャット活用事例の公開と、無料相談会等でのテレワーク導入・定着の支援

【ビジネスチャット活用事例】

<https://www.wowtalk.jp/>

※トップページにはビジネスチャットをテレワーク時に活用する一部のお客様企業ロゴが掲載

<https://www.wowtalk.jp/case.html>

※お客様のビジネスチャットの活用事例を複数掲載